

野蒜復興新聞

野蒜地区復興協議会 合同部会

元土地利用の考え方など協議共有

8月7日、野蒜地区復興協議会の合同部会（高台移転部、復興部、産業振興部、医療福祉部、教育部、産部）が開催されました。会場には住民と関係者合わせて70名程集まり、市の復興都市計画課とコンサルタントから土地利用計画（案）についての説明を受けたのち、質疑応答の時間をもちました。土地利用計画（案）へは、昨年10月に野蒜まちづくり協議会から市へ提出していた提言書、また今年2月と3月に実施した意見交換会で部会員から提案された意見を基に、市の復興整備計画等と擦り合わせた計画（案）が示されました。今後はさらに各部会と関係者でこの計画（案）を協議し、全体会で皆さんへお示しできるように協議を進めてまいります。（意見交換会での地元意見は裏面）



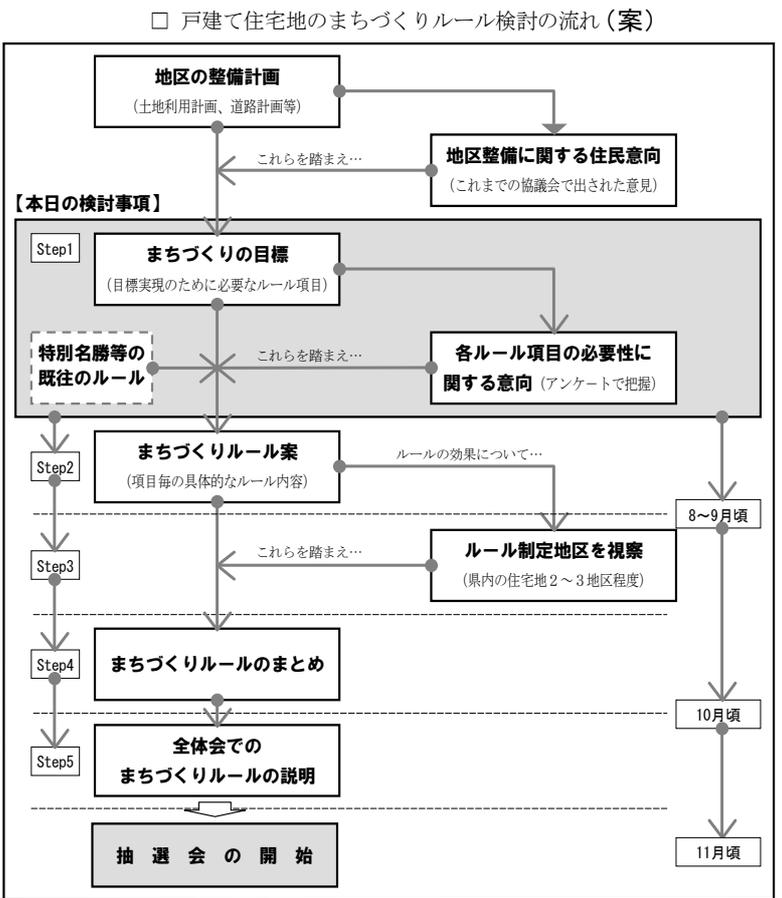
野蒜地区復興協議会会長の議長により意見交換(野蒜市民センター)

高台移転部会
まちづくりのルール
7月28日に第5回高台移転部会が開催されました。このたびの次第は「まちづくりのルールの検討について」で、今までの協議会での意見から、まちづくり目標（案）が示されました。「ゆとりと広がりのある住宅団地、周囲の自然や緑と調和する住宅団地など」。またこれらの目標達成のために必要な高さ、盛り土、建ぺい

率、容積率、壁面位置、形態や色調、垣や柵の制限を設けるべきかどうか、コンサルタントと市の担当課の説明を受けながら、それぞれの意見を伺いました。次回はこの集計結果をもとに「まちづくりルール案の方針」「ルールを制定している地区への視察の方針」「併用住宅の建設に係る方針」について協議する予定です。



新しいまちづくりルールを協議中の高台移転部会

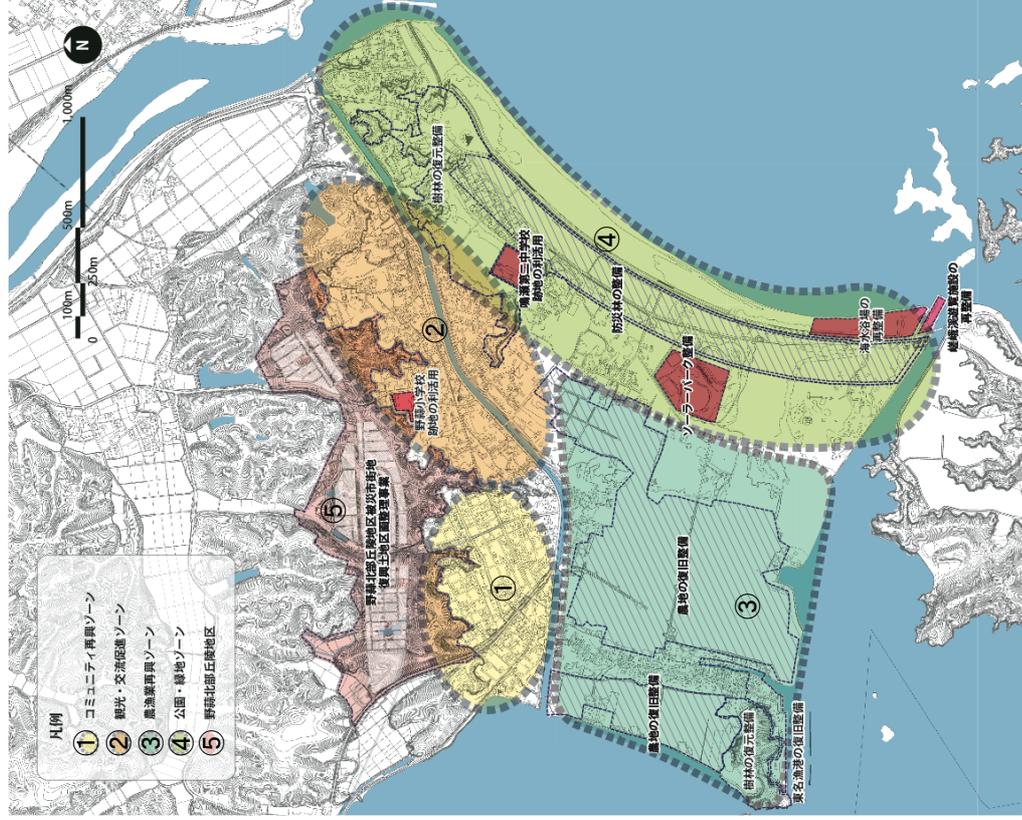


コミュニティ再興ゾーンについて

- ・「暮らしの場」として日常生活に必要な施設や機能を、直ちに整備してもらいたい。
→具体的には、「病院」が必要であるという意見が出された。
- ・仙石線跡地やそのトンネルを活かすと面白いのではないかと。
→具体的には、「遊歩道」や「サイクリングロード」を整備してほしいという意見が出された。
- ・北部丘陵地区との際の空間を活用して、公園を整備してもらいたい。
→例えばとこのことで、「鶴越山」の公園・避難場所化や、津波の目印となり避難場所となるような公園整備に関する意見が出された。
- 山の景色をつくって欲しいという意見が出された。
- ・松島湾側にヨットハーバーを整備してほしいかと。
・北部丘陵地区の新しい街と既存の街の住民が、情報機器などを活用して連携するのが良いのではないかと。

全体について

- ・“住みやすさ”と“雇用を生み出す”土地利用が重要である。
- ・風光明媚な自然とその風景、歴史、地場産品（海産物・農作物・花など）を資源に観光を中心的な産業としていく土地利用を考えていきたい。
- ・特に、「東名運河（松並木を含む）」を残し、そこにいる魚も含めて観光の資源にすべきである。
- ・堤防は景観を優先したつくりとして欲しい。



農漁業再興ゾーン

- ・農業の形態は様々であるが、“仕事場としての農地”を大切にしたい。
- ・冠水した農地に鳥が沢山集まってきているので、ハードサンクチュアリの整備がイメージされる。
- ・歴史的に海だった場所でもあるので（塩田跡）、もし農地を継承する人がいない場合には、別の利用を考えてみてはどうか。
→具体的には「ヨットハーバー」の意見が出された。
- ・「鹽竈神社」は塩釜にある鹽竈神社より歴史が古く、建物は無いが御神体は残っているの復興させたい。
- ・「東齊塩場の碑」は歴史的な資源として活かせるのではないかと。
- ・かつて潮干狩りができたので、観光に活用できないか。

観光・交流促進ゾーン

- ・人が住めないようなところに、人が多く集まるということはないことから、観光・交流促進の区分とすべからば、人がいる（住める）場所にすべきではないか。
→宿泊施設を整備すべきという意見が出された。
- ・新野蒜駅の近くに避難場所として使える公園が欲しい。
- ・東名運河に船の係留場をつくってはどうか。
→震災前より水位が高く、船が通りやすい。
→「レジャーボートのヨットハーバー」という具体的な意見が出された。
- ・以前のように旧野蒜駅の前における東名運河と松林をライトアップして人呼びたい。様々な種類の植物を植栽するのも良いのではないかと（津波対策にもなる）。
- ・東名運河の北側に本格的な運動公園を整備し、様々な競技に人が集まるような環境を整えたい。
- ・北部丘陵地区とつなぐ道路は、避難路としてだけでなく、遊び心のある施設を併設して欲しい。
→具体的には「ローリング滑り台」という意見が出された。

公園・緑地ゾーン

- ・「余響の松」を含め海岸線の美しい松林を復活させるとともに、キャンプの出来る環境を再生したい。
→「松露狩り」を観光に活用すべきという意見が出された。
- ・大切な資源である「野蒜海岸」を復活させ、部分的にでも海水浴をはじめ、ビーチバレーやマレットゴルフなどが楽しめるような環境を整えるべきだと思う。
→海水浴の再生には“宿泊”機能が重要であり、可能な場所に立地を促進すべきという意見が出された。
- ・「野蒜港」をテーマとした、新しい資料館整備やクルージング展開などを行ってはどうか。
- ・「不老山」「亀岡遺跡」「縄文遺跡」や沢山の神社などの歴史的な資源をまちづくりに活かしていくべき。
- ・旧「かんぼの宿」の温泉再利用や避難所としての施設利用を考えていくべき。
- ・嵯峨溪の遊覧船を復活させたい。

[テキストの入力]

[テキストの入力]

[テキストの入力]